

# グローバルで同一品質を実現するため 動画マニュアルを全工場で有効活用

## サラヤ

手洗い・消毒剤製品などの衛生用品のトップメーカーのサラヤ(大阪市東住吉区)は、今年4月から全拠点で標準作業手順書の動画マニュアル化に取り組み始めた。海外工場10拠点を含むグローバルに展開する同社では、“同一品質”を実現するに当たり動画マニュアルが不可欠なものとなりつつある。各工場で動画マニュアルの作成が進む中、最も新しい生産拠点の関東工場(茨城県北茨城市)では、従来の紙のマニュアルで伝えにくい、わかりにくい部分を中心に動画化。ミャンマー人技能実習生の教育ツールとしても活用している。

### 世界の衛生・環境・健康に尽力

日本で初めて石けん液と、石けん液を衛生的に供給する容器「押出・押上式」石けん容器を開発したサラヤ。戦後、伝染病「赤痢」がまん延する中、同社が開発した手洗いと同時に殺菌・消毒のできる「パールパーム石けん液」によって手洗いの文化が普及し、日本の公衆衛生が向上した。その後、「うがい器」の開発とうがい文化の励行によっ

て高度経済成長期の大気汚染対策に貢献。さらに植物由来の食器用洗剤「ヤシノミ」など環境配慮の製品を開発した。1990年代にはカロリーゼロの自然派甘味料「ラカント」を発売するなど、健康分野にも参入。国内外の衛生・環境・健康を支える商品を次々と世に送り出してきた。

それらの商品は大阪工場(大阪府柏原市)、伊賀工場(三重県伊賀市)、熊野食品工場(三重県熊野市)、関東工場(茨城県北茨城市)の国内4工場で生産しており、10の海外工場も置く。2020年3月には国内4番目の生産拠点として関東工場を設立した。大阪・伊賀工場で製造していた石けん・洗剤製品の医薬部外品、主に食品業界で使用される殺菌、アルコール剤、食品添加物の一部の商品を生産移管。大阪・伊賀工場からの出向メンバーと現地採用メンバーと合わせて174名で稼働を開始した。

関東工場の船出と時同じくして、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し始め、それは衛生商品を手がける同社にも大きな影響を及ぼした。

写真1 左から関東工場総務部 山田隆雄部長、生産部食添課 白土咲央莉主任、生産部部外品課 伊藤大輔主任、生産部 北野歩次長



### 会社概要

会社名：サラヤ(株)  
所在地：〈本社〉〒546-0013  
大阪市東住吉区湯里2-2-8  
〈関東工場〉〒319-1556  
茨城県北茨城市中郷町日棚644-55  
設立：1959年  
従業員数：1,709名(関東工場：210名)  
2021年9月末  
事業内容：食品、食品添加物、化粧品、医薬部外品、  
一般雑貨品洗浄剤などの製造



写真2 工場内に掲示された手順書を見ながら集合ミーティング



政府からの要請を受け、関東・伊賀の2工場は手洗い石けんやアルコール製剤などを24時間稼働の増産体制を敷き、安定供給を続けた。また、「コロナ禍での巣ごもり生活で自炊が増えたことと、健康志向の高まりからカロリーゼロ甘味料“ラカント”の需要が増大。国内だけでなく米国でも大ヒットしました」と関東工場総務部の山田隆雄部長(写真1)は明かす。衛生商品から食品まで、コロナ需要によって一時期は多忙をきわめた。

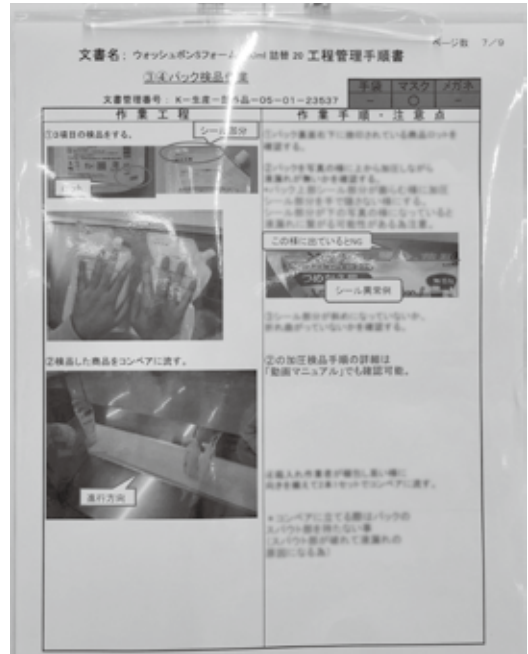
### 動画で「わかりにくさ」を補完

関東工場の稼働開始から約1年。生産状況が落ち着いてきた21年4月、サラヤ全工場での製造の標準作業手順書の動画マニュアルプロジェクトが始動した。

従来はExcelで作成した作業手順書(マニュアル)を紙に出力して使用していたが、「異音が出たら、色が変わったら、など抽象的な表現を紙ではなかなか伝えきれません。人によって解釈が異なることもあります。動画にすれば音や色、動作をわかりやすく説明できますし、標準化する意味でも動画が最適と考えました」と生産部の北野歩次長は動画マニュアル導入の背景を話す。

同社では以前にも動画制作に挑戦したことがあったという。しかし、「素人が編集すると時間も労力もかかりうまくいきませんでした」(北野次長)。そこで全社的に導入したのが、Tebiki(株)が提供する動画マニュアル作成システム「tebiki」である。

写真3 Excelで作成した手順書を印刷し、ラミネートして現場に掲示。その中のわかりにくい部分や詳細を別途、動画化している



「世の中にいろいろな動画編集ソフトがありますが、当社の特徴に合っていたのがtebikiでした」。その決め手は操作のしやすさ。スマートフォン(スマホ)やタブレットで撮影し、ITの専門的なスキルがなくても動画編集をできるのが特徴。簡単かつすぐに動画マニュアルを作成できる。「若い社員は日頃からスマホの操作に慣れているので、素人でも取り組みやすいツールでした」(北野次長)。

ただし、完全に動画マニュアルに移行するのではなく、動画は作業のポイント説明や理解度を高めるための補助として役立てている。従来のExcelで作成した手順書には「詳細は動画マニュアルでも確認可能」と追記。動画説明を追加した際には、つど従来のマニュアルも更新している。また、今でも紙のマニュアルは工場内に掲示されており、それを見ながら確認や集合ミーティングを行っている(写真2)。

特に文章や写真だけでは伝えにくい作業や工程を優先的に動画化している。たとえば、袋に液体が入ったバック商品の確認作業。紙の工程管理手順書(写真3)には「押す」と記載しているが、押すという言葉だけでは、どの程度の力で押せばよ